

街を行く

第54回 ポストン Boston

「さりげなく」「優しい」街でした

冬のポストンは寒い！今シーズンはとにかく雪が多く、小生が訪れた時は記録的な大雪でした。もはや寒さは東海岸の北、ニューイングランドへ来た証だと観念。めいっぱいエンジョイすることにしました。

この街を取り上げるのはこれで3回目。優れた教育機関の集まる「学問の聖地」とか、アメリカ人の「心の故郷」といった切り口で紹介しましたが、今回は大げさな題目は掲げず、気楽に下町をそぞろ歩く感覚でみていきましょう。

街を歩いてまず気が付くのは、歴史的建物が現役で活躍していること。過去にいかなる有名人が住んでいた住居でも、観光や博物館的な利用はされず、今を生活している人々によって住み継がれ、生きた建物として使われています。

この辺の感覚が日本と少し違って面白いというか、勿体ない感じもします。また、でこぼこの古い石畳の歩道を歩くと、現代風で個性的な店が軒を連ねます。下町なのにどの店もお洒落で、「本当にアメリカなの？」と疑ってしまいました。なぜならアメリカはオシャレというよりもビビッドで新しいというイメージがあるものですから。食事も他の街にあるレストランと比べて味が繊細で上品だし店内の雰囲気も穏やかでシンプル。ここはニューイングランドなだけにヨーロッパと感覚が近いのかもしれませんが。日本人にも非常に受け入れられやすいでしょう。ホノルルの次に日本人に人気ある都市に挙げられているのも頷けます。買い物大好きな小生にとっては来る度にお洒落な小物を見つけるのが楽しみです。こんなさりげなさの中に観光都市の顔が



雪化粧のポストンコモンと古い石畳の下町風景。うーん、さりげなく心が癒やされる(ものすごく寒かったけど)

あります。お仕着せられたものでなく、訪れた人が心地よいと感じられるかが勝負。「疲れない」というのが大事なコンセプトでしょう。アジアの大都市は、活気があるとも言いますが頑張り過ぎ、楽しみを強いられているようで少し疲れます。日本も成長戦略の一環として、観光立国をスローガンにあの手この手で外国人観光客を集めようとしています。メジャーな京都や奈良などは別格として、地方都市は生き残りをかけた戦として力が入っているでしょうが、あまりそれを全面に出し過ぎず、さりげなさも必要かもしれません。人間が最後に街に求めるものは「優しさ」なのです。

今回はこれをさりげなく感じたお蔭で、旅の疲れはまったく有りませんでしたよ。少し出来過ぎた旅だったかも…。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。